議会広報広聴特別委員会 行政視察調査報告書

- 1 視察日 2025年7月15日(火)~16日(水)
- 2 視察先 調査事項
- ○広島県呉市
 - ・議会だよりの編集について、他
 - ○兵庫県神河町
 - ・議会だよりの編集について、他
- 3 視察者

委 員 長 前田敦司 副委員長 芦田竹彦 委 員 太田智博 委 員 岡 本 昭 治 委 員 清 水 寛 員 中尾 浩二 委 村 岡 峰 男 委 員 議会事務局 中 川 光 典



呉市にて意見交換



呉市議事堂前にて



神河町にて意見交換



神河町議場にて

日 時	2025年7月15日(火) 午後2時00分~午後3時30分
視察先	広島県呉市
調査項目	議会だよりの編集について
調査内容	市民に「手に取ってもらえる」議会だよりの編集方法
所 感	豊岡市議会広聴広報委員会として、広島県呉市役所にて視察を行った。
	視察の主な目的は、呉市議会が取り組む「議会だより」の編集や広報活動について学ぶことである。
	呉市の議会だよりは、読みやすさと親しみやすさを重視し、何より「まず見てもらう!」というコンセプトのもと、市民との距離を縮める工夫が随所に見られた。
	特に議員の顔写真とともに発言要旨を掲載し「伝えたいこと」と「知りたいこと」は違う!という観点から、誰がどのような立場で発言したかが、ひと目で分かるように編集されている点は大変参考になった。
	また、デザインやレイアウトにおいても、カラーや図表を効果的に使い(カラーに関しては青、緑が主に使用されており)、市民が直感的に内容を把握しやすい紙面づくりが印象的であった。広報紙を通じて議会を「見える化」し、市民の関心を高める努力に感銘を受けた。
	さらに裏表紙には「将来の夢」を語る小学生の子供が、写真付きで毎号掲載されており、議会に関心のない人たちにも目を通してもらえる工夫を感じた。
	今回の視察を通じて、議会の情報発信は単なる報告にとどまらず、市民との対話の第一歩であると改めて実感した。今回得た知見を今後の「議会だより」の作成を含めた広報活動に活かしていきたいと考える。

日 2025年7月16日(水) 午後2時00分~午後3時30分 時 視察先 兵庫県神河町 議会だよりの編集について 調査項目 調査内容 1. 議会だより かみかわについて 2. 編集の流れ(スケジュールなど) 3. 紙面内容について(デザイン性、工夫) 4. その他 所 感 1. 年4回発刊、定例会中に素案を検討し編集期間は議会閉会後約1カ月と短 期間で発刊している。体制は委員6名+事務局1名。発行部数は全戸配布3, 946世帯含めて4,250部の発刊である。予算は1ページ単価12,1 00円(税抜)であり発刊内容によってページ数に制限は無いが MAX の枚数 は決まっている。一般質問は1人400字以内。フルカラーで作成し1冊の ページ数はこだわらない。 2. 読んでもらえる議会広報を目指し短期間で発刊できるよう心掛けておら れ、定例会閉会後約1カ月での発刊に努力され町民へリアルタイムで情報 が届くよう町民目線での発刊に心掛けている。 3. 令和6年7月にリニューアル。町民が議会だよりを読んでいないことが判 明し、「誰にでも分かりやすい、読みやすい、親しみやすい」をコンセプト とし、町民目線で分かりやすい紙面づくりを意識し作成している。よって校 正は全て議員=委員で行い、印刷会社は印刷するのみにしていることから、 機関誌へのこだわりが読み取れる。 デザイン・工夫を意識し、町民が写っている写真を多く掲載し、文面の文 字数を減らし余白を意識するデザインとなっている。また、表紙から1ペー ジ目と流れを意識しページ毎が単発とならないよう流れを意識しての冊子 となっている。表紙の「かみかわ」というロゴも題字を町内在住の小中高か ら募集し掲載。その題字が採用された子どもの紹介ページも掲載され世代 を超えた多くの町民に楽しめる議会だよりとなっている。令和4年4月に 施行された町議会選挙では定数割れの無投票となったことから議員の担い 手不足が発生。議員活動をもっと知っていただきたいことから「町民のな

印象に残ったこととして、町民と一緒につくる。町民の声を積極的に取り上げ、より町民に親しまれる議会だよりを作成。「議会が伝えたいことと町民が知りたいことは違う」を念頭に委員・事務局が一丸となり県下1位の議会だよりを作成する。という強い信念で作成し取り組んでいることに感銘を受けた。

ぜ」を解説するとともに、専門用語や疑問を解説、議会豆知識として例えば

「予算審査っなに?」と題し町民目線で解説している。